

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100214		
法人名	株式会社ワムタック		
事業所名	コンフォートウェル焼津		
所在地	焼津市西小川2-9-1		
自己評価作成日	令和 4年 11月 1日	評価結果市町村受理日	令和5年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoCd=2295100214-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 12月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コンフォートウェル焼津は立地条件が大変良く、施設の東隣には公園があります。リビングの大きな窓からは朝日が入り、木々の緑や空が見え、日々の暮らしが心安らぎ豊かで穏やかな毎日を送ることが出来ます。公園に遊びに来る子供たちの声が聞こえたり、窓から元気に遊ぶ姿を見る事も楽しみの一つです。職員も優しい気持ちでケアに取り組む事が出来ています。日常生活では利用者様が四季折々を感じて頂けるよう、外出の機会を増やしていきます。看護職員を配置することで、医療面の相談ができ、安心して生活できます。移動スーパーを週1で利用し、利用者様に買い物を楽しんで頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の隣には公園があり、利用者が不穏になった時や気分転換に出かけ、地域住民と挨拶を交わしている。事業所は見晴らしがよく、高草山のクリスマスイルミネーションや海上花火が見え、利用者は楽しみにしている。近隣の保育園児ともコロナ禍でもハロウィンの衣装を見せてもらったり、施設の花壇の手入れで連携が取れるようになる予定である。また、移動スーパーが毎週1回施設の前に来てくれるようになったので、今後地域住民と交流の場になることを期待している。協力医は24時間365日対応可能で、看護職員も在籍しているので、職員も安心してケアを行う事ができる。職員は利用者にゆったり接することを心がけているので利用者は穏やかに毎日を過ごし、担当職員は毎月おやつレクや外出等利用者の楽しみを創出している。チャットを導入することにより、職員の情報共有が即座にできるようになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を毎朝の申し送り時に職員で唱和を行い浸透させている。また理念に合わせて職務を遂行している。	理念と行動指針を事務所に掲示し、毎朝申し送り時に唱和している。理念に基づいて、「月の目標(接遇)」を設定している。職員は「目標シート」があり、管理者と副主任と年に4回面談をし、目標達成を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により直接の交流の機会がもてなかったが、以前から交流のある近隣保育園より敬老の日に壁画のプレゼントを頂きました。また防災訓練で施設の外階段を利用して頂くなど繋がりは持っている。町内会費を納めており、町内会の回覧板を閲覧している。	コロナ禍で地域の行事が中止になり連携が取りにくいのが、町内会に加入し回覧板が届けられ、少ないながら地域交流の機会を継続している。近隣の保育園とは交流を続けており、保育園の防災訓練で園児の階段利用の協力を行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントがあれば参加してきていたが、コロナ禍によりイベントの機会がないため、施設内で工夫して暮らしを楽しんでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議は開催できず、書面にて利用者様の状況や施設内での様子を報告した。	行政と地域包括支援センターの職員は運営推進会議に毎回出席し、民生委員、家族、医療機関関係者の参加で報告は事故報告を含め丁寧になされている。参加者からは活発な意見があり、運営に活かされ、職員は議事録を見て情報を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	焼津市地域包括ケア推進課・介護保険課の職員と連携をとり質問や相談等ご指導を頂いている。提出書類等は可能な限り届け直接言葉をかわせるよう心がけている。	提出書類は関係課や地域包括支援センターに直接持参し、協力関係を築いている。運営や法令でわからないことは関係課に尋ねたり、地域包括支援センターから入居の相談がある。介護相談員も受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている。身体拘束廃止委員会を毎月開催し禁止行為を行っていないかチェック表にて確認を行っている。定期的に施設内研修を行い身体拘束に理解を深めている。1階は現在使用されていないため、防犯面で施錠している。	マニュアル、指針は整備され、職員がいつでも見られるよう配慮されている。委員会は管理者、各ユニットの副主任の3人で毎月チェック表のチェックやグレーゾーンの検討をしている。研修は年に2回実施され、「身体拘束の弊害」と「不適切ケア」について行われた。	

静岡県(コンフォートウェル焼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を毎月開催し、虐待がないか、虐待に繋がる行為はないかを確認している。虐待防止のため施設内研修を行い理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、管理者やケアマネにより職員研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前面談や契約当日に実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。家族との連絡ノートを作りご要望を記入して頂けるようにしている。運営に関する内容のご意見を頂ければ反映していきたい。	家族との「連絡ノート」はコロナ前は家族面談の際に使用していたが、現在は中止しており、電話での報告を密にしている。お便り「ウエル焼津通信」は毎月写真を載せて家族に発送している。	お便りは、担当職員や管理者から毎月の利用者個人の状態や様子のコメントを載せ、個別対応にすることで家族との連携につながる。また、コロナ禍で面談に来れない場合があるので「家族アンケート」の活用も検討されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回施設内全体会議を行っており、その都度意見や提案を聞く機会としている。3か月に1度、管理者との面談を設けており意見や提案を聞く機会としている。また職員が業務改善提案をしやすいよう書式を用意している。	研修も含め毎月1～2時間かけて全体会議を行っている。年4回の個人面談で職員の思いや仕事に対する意見を聞き、最近はチャットを利用して情報の共有をしている。管理者は改善提案を職員から直接聞く事ができるなど良い関係性を維持している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材育成規程に基づき、定期的に職員面談を重ね、スキルアップややりがいなど向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	週1回法人幹部・管理者会議を実施し、各管理者は直接代表者に相談したり指示を受ける機会がある。施設内研修を毎月実施しており、外部での研修はコロナ禍によりオンラインにて参加している。		

静岡県(コンフォートウェル焼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ企業内で合同研修や勉強会・報告会を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から利用者情報を職員間で共有、心身の状態を把握し、入所後も安心して生活出来るよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議を開催し家族の要望を伺っている。また必要に応じ、電話にて日常の様子を報告し家族と関わりを持つことで関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階で色々な状況や要望を聞き出して、ニーズや課題を引き出し、一番適切なサービスを紹介するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には常々「利用者様と共同生活を行う」というスタンスについて指導しており、職員もその認識で業務にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会が制限される中、電話で本人様と会話をして頂いたり、細かいことも職員から電話にて報告させて頂くなど努力した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に施設側から連絡することはないが、電話連絡があれば取り次いでいる。コロナ禍以前は訪問客との面会対応もしていた。個々の馴染みの場所へは行けていないが、コロナ禍でも市内のドライブにて景色を見ながら昔の思い出話を聞かせて頂いた。	現在は1階の面談室で、感染対策をして1家族2名以内で10～15分面会が可能である。利用者が家族と電話をしたいという要望があると取り次ぎ支援をしている。家族から手紙が届いたり、ドライブで馴染みの場所に出かけるなど関係を継続できるように心掛けている。	

静岡県(コンフォートウェル焼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係が築けるよう常に心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の状態や本人・家族の要望を取り入れた施設サービス計画書を作成している。ケアプランは介護・看護スタッフで共有して把握に努めている。	職員は利用者にゆったり接しているのによく観察をして利用者の要望をくみ取り、利用者の訴えのタイミングを重視したケアを行っている。情報はチャットで即座に共有している。看護師が作成した「機能訓練プログラム」を取り入れ、筋力維持に務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りや、以前の担当ケアマネジャーと連携を取り把握するよう努めている。施設での生活で疑問に思う事は家族へ連絡し以前からののか、そうではないのか確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りから現状の把握に努めている。また情報を職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書はないが課題とケアの在り方についてサービス担当者会議にユニットリーダーも参加して内容をユニット職員へ共有している。課題がある場合は都度カンファレンスを開き職員で意見を出しケアについて検討している。	全体会議で利用者の変化に応じて1~3人のカンファレンスを行っている。ケアマネジャーが中心になって担当者会議でモニタリングをしている。「施設サービス計画書」の更新時にはケアマネジャーが家族や関係者の意見を聞いて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	クラウド型ケア記録を使用し、全利用者の記録等の情報を職員間で共有している。検討する事があれば期間を決め、その内容について全職員が細かく記録を残し共有することで統一した個別ケアに繋げている。		

静岡県(コンフォートウェル焼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組むよう努力している。法人内の機能訓練士に相談し個々の状態に合わせた機能訓練プログラムを作成、日々のリハビリとして取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントがあれば参加してきていたが、コロナ禍によりイベントの機会がないため、施設内で工夫して暮らしを楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医による訪問診療が月2回、精神科医による訪問診療が月1回あり定期的に健康チェックを行っている。また24時間365日医療連携している。他科診療が必要な際は、家族と協力し受診援助をしている。	全利用者が協力医の往診を定期的に受け、内科、皮膚科、精神科については、協力医の診察を受診している。他科の症状については初期対応を行い、専門医への紹介をしている。24時間体調変化の相談を受けてもらえ、事業所には看護師がいるので利用者の体調について相談ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを看護職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	実施している。地域の総合病院の相談員と連携をとり、入院の際は情報交換、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針を策定しており、入所時に説明して家族より同意を頂いている。また看取りの際は関係者と密に連携をとり取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期について、事業所の方針を説明し同意書を得ている。担当者会議で医師が利用者の状態について家族同席で説明をし、家族の意向を再確認して支援の方法について話し合い取り組んでいる。同意書については随時家族に更新してもらっている。看取りの研修は年1回計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を実施しており、緊急時の対応マニュアルを用意している。		

静岡県(コンフォートウェル焼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練(内1回は夜間想定)、年1回の火災訓練を実施している。コロナ禍で地域の合同訓練は参加を控えている。	地震、水害、火災想定で訓練は年に2回行い、別に追加で2回ほど行っている。防災委員が計画をし、消防署にも報告相談をしている。夜間想定は実際の夜勤者が行き、発電機も2台確保してある。備蓄は地域住民の分も含め1週間分準備している。	前回の外部評価で目標とした炊き出し訓練や土嚢の訓練は実施できたが、コロナ禍で地域連携が進んでいない。災害時に職員がすぐに駆けつけることができないことも想定して地域連携が進められるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を毎月開催し、翌月の目標設定、当月の実践の確認を行っている。接遇目標は毎朝の申し送りの際に職員で唱和し、意識して業務を遂行している。	接遇委員会を毎月開き、次月の目標について話し合いチャットで内容を知らせ職員全員で共有している。目標は身近なもので達成しやすい内容になっている。職員は利用者への言葉かけ、対応について自ら気かけながら業務に努められるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定が出来るよう働きかけている。「もう少し寝ていたい」「お風呂はもう少し後が良い」など常に希望を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ペースで日々過ごせるよう取り組んでいるが、時間で区切ってしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服が選択出来る方には行ってもらっている。選択することが難しい利用者は職員が確認をしながら介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けの出来る方は少ないが、食器を並べたりおやつ作りで混ぜる作業を行ったり出来る作業を職員と楽しんで頂いている。	業者より湯煎調理の食材を配達してもらい、ご飯と汁物は職員が調理している。コロナ前には外食を楽しむことがあったが、今は毎月職員がおやつ作りの計画をたて利用者の希望も聞き、実施して楽しめるようにしている。食器を並べたり、テーブル拭き等出来ることに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施している。食事摂取量や水分摂取量は介護記録に記録し管理している。必要に応じて医師・看護師から指導・助言を受けている。		

静岡県(コンフォートウェル焼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	弊社取締役の歯科医師・運営歯科医院の歯科衛生士により指導・助言を受けて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自立を促している。排泄の意思がない方に対しては排泄のリズムを把握しトイレ誘導を行っている。	利用者個々の排泄の記録は紙とタブレットに記録している。なるべく自立でトイレ使用を勧めているが、利用者の排泄の状態を把握して、先回りの声かけてトイレへ誘導している。夜間の排泄もナースコールやセンサーで対応、支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医・看護師・薬剤師にその都度相談して指示を受けている。週3回のヨーグルトの提供やヤクルトの提供にて工夫している。また毎日体操を行い運動をすることを心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間が概ね決められており個々の希望されるタイミングとなっていない事がある。入浴拒否がある方には希望のタイミングを見計らって支援している。	週2回、午前、午後に入浴の支援をしているが、時には全員の入浴支援をすることもある。入浴剤は3種類準備し、楽しんで入浴できるよう支援している。浴槽での入浴が難しい利用者のため、リフト浴の設備を本部に依頼している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施している。心穏やかになれるよう、就寝前には静かに過ごす時間を設けている。就寝時間は決めず、個々の眠れるタイミングで就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師の指導のもと、用法・用量の把握をしている。看護師に相談して副作用についても理解できるよう指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者本人、ご家族に聞きながら気分転換できるよう支援している。		

静岡県(コンフォートウェル焼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとりひとりの希望に沿うことは出来ないが、コロナ禍前は計画を立てて外出するようにしていた。感染症が治ったら、積極的に外出する予定である。	事業所の隣の公園に外気浴を兼ねた散歩に出て近隣の人と挨拶をしたり、海や少し離れた公園へと2ユニット合同で車中ドライブをしている。また、移動スーパーに事業所の前に来てもらい、おやつや野菜を買っている。コロナが落ち着いたら皆で外食に行くことを楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施していない。外出した際に買い物の機会があれば買うものを選んで頂き、職員が渡したお金を支払ってもらった。移動スーパーの導入を予定しており、お金を使う事への支援に繋げていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は手紙を書いたり、電話をかけたり受けたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している。季節ごと壁画作成を行い、季節感を取り入れている。	居間、食堂の壁面には、利用者、職員が一緒に作った季節を感じる作品が掲示してある。現在はクリスマスの作品が掲示されていた。事業所の周りには高い建物がないので、居間は陽当たりが良く 市内を一望できる。手指、テーブル、手すりはアルコールで定期的に消毒し、廊下、居間の清掃は消毒も含め利用者が積極的に手伝ってくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食堂のテーブルやソファの配置を必要に応じて変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に持ち込み可能な物を説明している。使い慣れた物、あると安心する物があれば持参して頂いている。	ベッド、タンスが備え付けられ、部屋の入り口には防災頭巾が準備されている。使い込まれたタンス、置き時計、洋服がたくさん掛けられたハンガーラック、家族の写真がベッドで横になって見られる位置に貼ってあるなどそれぞれ工夫が見受けられる。季節の入れ替えは職員が行い、家族に渡している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置を示すマークを貼ったり、理解の難しい方には声掛けで少しでもわかって頂けるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100214		
法人名	株式会社ワムタック		
事業所名	コンフォートウェル焼津		
所在地	焼津市西小川2-9-1		
自己評価作成日	令和 4年 11月 1日	評価結果市町村受理日	令和5年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2295100214-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 12月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コンフォートウェル焼津は立地条件が大変良く、施設の東隣には公園があります。リビングの大きな窓からは朝日が入り、木々の緑や空が見え、日々の暮らしが心安らぎ豊かで穏やかな毎日を送ることが出来ます。公園に遊びに来る子供たちの声が聞こえたり、窓から元気に遊ぶ姿を見る事も楽しみの一つです。職員も優しい気持ちでケアに取り組む事が出来ています。日常生活では利用者様が四季折々を感じて頂けるよう、外出の機会を増やしていきます。看護職員を配置することで、医療面の相談ができ、安心して生活できます。移動スーパーを週1で利用し、利用者様に買い物を楽しんで頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を毎朝の申し送り時に職員で唱和を行い浸透させている。また理念に合わせて職務を遂行している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍により直接の交流の機会がもてなかったが、以前から交流のある近隣保育園より敬老の日に壁画のプレゼントを頂きました。また防災訓練で施設の外階段を利用して頂くなど繋がりは持っている。町内会費を納めており、町内会の回覧板を閲覧している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントがあれば参加してきていたが、コロナ禍によりイベントの機会がないため、施設内で工夫して暮らしを楽しんで頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議は開催できず、書面にて利用者様の状況や施設内での様子を報告した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	焼津市地域包括ケア推進課・介護保険課の職員と連携をとり質問や相談等ご指導を頂いている。提出書類等は可能な限り届け直接言葉をかわせるよう心がけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている。身体拘束廃止委員会を毎月開催し禁止行為を行っていないかチェック表にて確認を行っている。定期的に施設内研修を行い身体拘束に理解を深めている。1階は現在使用されていないため、防犯面で施錠している。		

静岡県(コンフォートウェル焼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を毎月開催し、虐待がないか、虐待に繋がる行為はないかを確認している。虐待防止のため施設内研修を行い理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、管理者やケアマネにより職員研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前面談や契約当日に実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。家族との連絡ノートを作りご要望を記入して頂けるようにしている。運営に関する内容のご意見を頂ければ反映していきたい。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回施設内全体会議を行っており、その都度意見や提案を聞く機会としている。3か月に1度、管理者との面談を設けており意見や提案を聞く機会としている。また職員が業務改善提案をしやすいよう書式を用意している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材育成規程に基づき、定期的に職員面談を重ね、スキルアップややりがいなど向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	週1回法人幹部・管理者会議を実施し、各管理者は直接代表者に相談したり指示を受けられる機会がある。施設内研修を毎月実施しており、外部での研修はコロナ禍によりオンラインにて参加している。		

静岡県(コンフォートウェル焼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ企業内で合同研修や勉強会・報告会を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から利用者情報を職員間で共有、心身の状態を把握し、入所後も安心して生活出来るよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議を開催し家族の要望を伺っている。また必要に応じ、電話にて日常の様子を報告し家族と関わりを持つことで関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階で色々な状況や要望を聞き出して、ニーズや課題を引き出し、一番適切なサービスを紹介するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には常々「利用者様と共同生活を行う」というスタンスについて指導しており、職員もその認識で業務にあたっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会が制限される中、電話で本人様と会話をして頂いたり、細かいことも職員から電話にて報告させて頂くなど努力した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に施設側から連絡することはないが、電話連絡があれば取り次いでいる。コロナ禍以前は訪問客との面会対応もしていた。個々の馴染みの場所へは行けていないが、コロナ禍でも市内のドライブにて景色を見ながら昔の思い出話を聞かせて頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係が築けるよう常に心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の状態や本人・家族の要望を取り入れた施設サービス計画書を作成している。ケアプランは介護・看護スタッフで共有して把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りや、以前の担当ケアマネジャーと連携を取り把握するよう努めている。施設での生活で疑問に思う事は家族へ連絡し以前からなのか、そうではないのか確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りから現状の把握に努めている。また情報を職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書はないが課題とケアの在り方についてサービス担当者会議にユニットリーダーも参加して内容をユニット職員へ共有している。課題がある場合は都度カンファレンスを開き職員で意見を出しケアについて検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	クラウド型ケア記録を使用し、全利用者の記録等の情報を職員間で共有している。検討する事があれば期間を決め、その内容について全職員が細かく記録を残し共有することで統一した個別ケアに繋げている。		

静岡県(コンフォートウェル焼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組むよう努力している。法人内の機能訓練士に相談し個々の状態に合わせた機能訓練プログラムを作成、日々のリハビリとして取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントがあれば参加してきているが、コロナ禍によりイベントの機会がないため、施設内で工夫して暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医による訪問診療が月2回、精神科医による訪問診療が月1回あり定期的に健康チェックを行っている。また24時間365日医療連携している。他科診療が必要な際は、家族と協力し受診援助をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを看護職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	実施している。地域の総合病院の相談員と連携をとり、入院の際は情報交換、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針を策定しており、入所時に説明して家族より同意を頂いている。また看取りの際は関係者と密に連携をとり取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を実施しており、緊急時の対応マニュアルを用意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練(内1回は夜間想定)、年1回の火災訓練を実施している。コロナ禍で地域の合同訓練は参加を控えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を毎月開催し、翌月の目標設定、当月の実践の確認を行っている。接遇目標は毎朝の申し送りの際に職員で唱和し、意識して業務を遂行している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定が出来るよう働きかけている。「もう少し寝ていたい」「お風呂はもう少し後が良い」など常に希望を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ペースで日々過ごせるよう取り組んでいるが、時間で区切ってしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服が選択出来る方には行ってもらっている。選択することが難しい利用者は職員が確認をしながら介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けの出来る方は少ないが、食器を並べたりおやつ作りで混ぜる作業を行ったり出来る作業を職員と楽しんで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施している。食事摂取量や水分摂取量は介護記録に記録し管理している。必要に応じて医師・看護師から指導・助言を受けている。		

静岡県(コンフォートウェル焼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	弊社取締役の歯科医師・運営歯科医院の歯科衛生士により指導・助言を受けて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自立を促している。排泄の意思がない方に対しては排泄のリズムを把握しトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医・看護師・薬剤師にその都度相談して指示を受けている。週3回のヨーグルトの提供やヤクルトの提供にて工夫している。また毎日体操を行い運動をすることを心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間が概ね決められており個々の希望されるタイミングとなっていない事がある。入浴拒否がある方には希望のタイミングを見計らって支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施している。心穏やかになれるよう、就寝前には静かに過ごす時間を設けている。就寝時間は決めず、個々の眠れるタイミングで就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師の指導のもと、用法・用量の把握をしている。看護師に相談して副作用についても理解できるよう指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者本人、ご家族に聞きながら気分転換できるよう支援している。		

静岡県(コンフォートウェル焼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとりひとりの希望に沿うことは出来ないが、コロナ禍前は計画を立てて外出するようにしていた。感染症が治まったら、積極的に外出する予定である。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施していない。外出した際に買い物機ががあれば買うものを選んで頂き、職員が渡したお金を支払ってもらう事はあった。移動スーパーの導入を予定しており、お金を使う事への支援に繋げていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は手紙を書いたり、電話をかけた受けたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している。季節ごと壁画作成を行い、季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食堂のテーブルやソファの配置を必要に応じて変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に持ち込み可能な物を説明している。使い慣れた物、あると安心する物があれば持参して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置を示すマークを貼ったり、理解の難しい方には声掛けで少しでもわかって頂けるよう工夫している。		